逗子吾妻鏡研究　49 号　2024.1.25
編集・発行　逗子吾妻鏡研究会〔249-0006　逗子市小坪4の12の11 伊藤方〕

＊＊＊＊＊

吾妻鏡を読むために（40）

鎌倉初期の大友能直について

＊＊＊＊＊

伊藤一美

はじめに

大友能直は、あの有名なキリシタン大名大友宗麟の先祖に当たる武士である。頼朝とはかなり早い段階から親しい関係にあったことが知られている。歴史事典などにもその生涯を知ることができる著名人物である。ここでは特に彼に関する初期の系譜伝承について考えてみることとする。

1　中原親能の親子関係について

中原親能の親子関係については、当時の記録には以下のものがある。

（イ）『吾妻鏡』文治 5（1189）年 8 月 9 日条➡「親能猶子左近将監能直」

（ロ）『明月記』建保元（1213）年 5 月 15 日条➡「故親弘入道養子左衛門尉＜実父三浦之輩云々＞」

（ハ）『吾妻鏡』建保元（1213）年 5 月 22 日条➡「故掃部頭親能入道猶子左衛門尉」

（ニ）『明月記』建永元（1206）年 9 月 25 日条➡「左衛門尉＜某、親能法師子＞」

（イ）の記事は、これまで頼朝に近仕していた中原親能が自分の「猶子」となった「左近将監能直」が、初めての奥州出陣に際してその扶持を宮六国平に託した時の記事である。かつて平家に属していた囚人宮六が親能に預けられていた関係からのエピソードによるものであり、たぶんに編纂された傾向が見受けられる。

（ロ）は、建保合戦の際に京都六波羅の家にいた「養子左衛門尉」が筑紫から上洛してきた検非違使小野成時に命を狙われた記事の一コマである。ここでは、「実父」が「親弘」とあり、これを「親能」と渡辺澄夫氏は考えられている（渡辺澄夫 1982）。その根拠はその条に「本姓によりその弟警護す」とあることによると思われる。すなわち「親弘」のもとに「三浦之輩」から「養子」にはいった人物「左衛門尉」という者がおり、和田義盛方に属した小野義成の子成時により命を狙われることとなったのである。

『秀郷流波多野系図』には波多野経家と三浦義継女との子が能直の母という記載がある。藤原定家がこうした伝承を聞き知っていた可能性は否定できない。

（ハ）の『吾妻鏡』の記事は、（ロ）『明月記』の記事をもとに編纂記述した可能性を筆者は考えている。

関東から最初の使者による鎌倉情報、院による禁制発布の事、在京武士の下向制止、佐々木広綱と五条有範の下向制止、そして 14 日に発生した、六波羅家にいた「左衛門尉能直」への小野成時による攻撃という、以上の 5 点にわたる『吾妻鏡』記述の流れは、『明月記』建保元（1213）年 5 月 14 日と 15 日、17 日の各条の趣意文とと比較すればほぼ同じ用語使い方であることが分か